



南方熊楠の海藻標本 ―国立科学博物館の場合―

北山太樹

あまり知られていないが、「知の巨人」、南方熊楠（1867—1941）は海藻も採集していた。熊楠は、粘菌（変形菌）の研究で有名であるが、細菌から妖怪まで、人体から天体まで、森羅万象を研究対象とし、そのなかには海藻も含まれていた。詳しい点数は未公表ながら、数百枚の海藻押し葉標本が国立科学博物館植物研究部（つくば市）に収蔵されている。

熊楠生誕 150 年にあたる昨年の年末より、国立科学博物館本館（台東区上野公園）では企画展『南方熊楠—100 年早かった智の人—』が開催された（3 月 4 日まで）。2 月中旬までに 12 万人以上が来場して熊楠人気の高さがあらためて示されたが、熊楠の多様なコレクションの中に海藻標本が含まれていることを世に紹介する格好の機会となった（図 1）。

熊楠が海藻を採集したのは、1900 年（明治 33 年）9 月に経済的困窮のためロンドンから帰国して故郷の和歌山に戻り、翌年の 10 月に紀伊那智へ移住して以降のことである。当初熊楠は海藻採集に熱意を持ち、那智入りして 1 年で 300 点近い標本を採集した。岡村金太郎が 1900 年に著した『海藻學汎論』も読んでいた。しかし、菌類や陸上植物に軸を置いた採集では海へ向かう機会が少なかったのか、あるいは岡村（熊楠と同じ年。誕生日は岡村が 13 日早い）に対する戦意喪失だったのか、海藻の採集は徐々に減り、田辺に移った頃には藻類の標本は淡水藻が中心になっていた。晩年の海藻標本には、妻の松枝や息子熊弥による採集品が含まれている。

熊楠の標本には、採集地・採集日・採集者などの情報が英文で筆記されているが、多くは同定にいたらず、種名を欠いている（図 2—4）。いずれは海藻も研究しようと目論んでいたはず



図 2—4. 南方熊楠が採集した海藻の押し葉標本。2. クロミル（1905 年 4 月 21 日、紀伊勝浦）。3. ユカリ（1901 年 5 月 19 日、紀伊加太浦）。4. フクロノリ（左）とカゴメノリ（1901 年 12 月 24 日、紀伊勝浦）。国立科学博物館所蔵（スケール無し。各図の縮尺は不統一）。

だが、膨大な菌類標本や菌類図譜（企画展で一部を展示）だけをみても、74 年の人生ではとても足りなかったであろうことが窺える。海藻学の黎明期を語るには欠かせないコレクションのひとつである。ご興味を持たれる会員は、下記へご連絡を。

（国立科学博物館）

【国立科学博物館植物研究部】

所在地：〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1。Tel：029-853-8975（北山）、E-mail: kitayama@kahaku.go.jp（北山）。HP：http://www.kahaku.go.jp/research/department/botany/index.html。交通：つくばエクスプレスで秋葉原駅から終点つくば駅（快速で 45 分）下車、関東鉄道バス筑波大学中央行きに乗り換え「天久保池」で下車、さらに徒歩 10 分。一般には非公開。研究・研修目的のみ利用が可。



図 1. 国立科学博物館で開催された『南方熊楠展』に展示された南方熊楠の海藻標本（左端の 2 点）。